

2:1 「シオンで角笛を吹き鳴らし、わたしの聖なる山でときの声をあげよ。」地に住むすべての者は、恐れおののけ。【主】の日が来るからだ。その日は近い。

2:2 それは闇と暗闇の日。雲と暗黒の日。数が多く、力の強い民が、暁とともに山々の上に進んで来る。このようなことは、昔から起こったことがなく、これから後、代々の時代までも再び起こることはない。

2:3 彼らの前は火が焼き尽くし、うしろは炎がなめ尽くす。彼らが来る前は、この地はエデンの園のよう。しかし、去った後は、荒れ果てた荒野となる。これから逃れるものは何もない。

2:4 その姿は馬さながら、軍馬のように駆け巡る。

2:5 その音は戦車のきしり、山々の頂を飛び跳ねる。その音は刈り株を焼き尽くす火の炎、戦いの備えをした強い民のよう。

2:6 諸国の民はその前でもだえ苦しみ、顔はみな青ざめる。

2:7 それは勇士のように走り、戦士のように城壁をよじ登る。それぞれ自分の道を進み、進路を乱さない。

2:8 互いに押し合わず、それぞれ自分の大路を進む。投げ槍が降りかかっても、止まらない。

2:9 町に襲いかかり、城壁の上を走り、家々によじ登り、盗人のように窓から入り込む。

2:10 地はその前で震え、天も揺れる。太陽も月も暗くなり、星もその輝きを失う。

2:11 【主】はご自分の軍隊の先頭に立って声をあげられる。その陣営は非常に大きく、主

のことはを行う者は強い。【主】の日は偉大で、非常に恐ろしい。だれがこの日に耐えられるだろう。

2:12 「しかし、今でも——【主】のことは——心のすべてをもって、断食と涙と嘆きをもって、わたしのもとに帰れ。」

2:13 衣ではなく、あなたがたの心を引き裂け。あなたがたの神、【主】に立ち返れ。主は情け深く、あわれみ深い。怒るのに遅く、恵み豊かで、わざわざを思い直してくださる。

2:14 もしかすると、主が思い直してあわれみ、祝福を後に残しておいてくださるかもしれない。あなたがたの神、【主】への穀物と注ぎのささげ物を。

2:15 シオンで角笛を吹き鳴らせ。断食を布告し、きよめの集会を召集せよ。

2:16 民を集め、会衆を聖別せよ。老人たちを呼び集め、幼子と乳飲み子たちを集めよ。花婿を寝室から、花嫁を自分の部屋から呼び出せ。

2:17 神殿の玄関と祭壇の間で、【主】に仕える祭司たちは泣いてこう言え。「【主】よ、あなたの民にあわれみをかけてください。あなたのゆずりの地を、国々のそりの的、物笑いの種としないでください。諸国の民の間で、『彼らの神はどこにいるのか』と言わせておいてよいのでしょうか。』

イスラエルや諸国にとってのさばきは、戦争に負けることや国が荒廃することでしたが、やがて世の終わりのさばきがあることを聖書は明言しています。ここでの預言はスケールの大ききから言って、そのような終末を暗示するものです。

このように終末はさばきの苦しみが伴っている

ことを忘れてはなりません。主は義なるお方であり、さばき主です。何でもいい加減に人間の都合よくしてくれるのが神ではないのです。

そしてそのようなさばき主であるからこそ、その憐れみと救いの驚くべき価値が分るのです。私たちが救われたのは、また終末が希望であるのは、有り得ないほどの愛の神によってもたらされたのです。恐れおののいて、救われたこと、赦されたことを感謝しましょう。またその感謝を表しましょう。

すでにクリスチャンであつても、主から離れてしまった部分はないでしょうか。それを認めて、主に立ち返りましょう。もしも、みこころにかなわないことがあったなら、「あわれんでください」と真剣に祈りましょう。そして、主のみこころを行うためのプランを、イエス様とともに立てていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

